

豊かな「装置」と 存在感

岡崎乾二郎展によせて

にふさわしい企画として「岡崎乾二郎展が催されている。ものである。

岡崎は沖縄ではほとんど知られてないが、日本の現代美術の若手作家の中では次代を担う傑出した論理と作品でうとに知られている作家である。

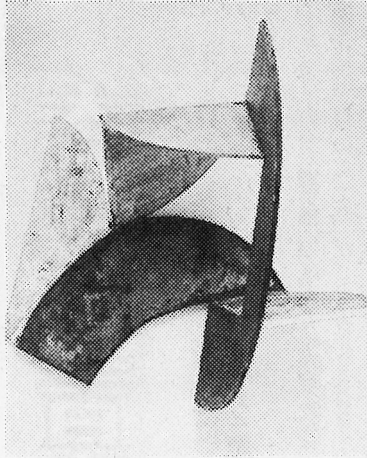
岡崎の作品は、いわゆるレリーフだが、かなり概念性の強いものである。ミニマルア

ートやマチスやさまじまな美術史の記憶を呼び起こしつつ、しかも素材の存在感を消しながらコンセプトとしての存在感を強く印象づけるというもので、だから素材はプラスチックや紙その他どこでも

持っている。岡崎には磯崎新や谷川俊太郎、金関寿夫など、美術家以外に多岐にわたったファンがいるのもうなすげえだろ。

多くの若い感性が展覧されることを期待する。

(翁長直樹・中学校教諭)
岡崎乾二郎展は七月五日(日)まで。ただし、月曜日は休み。



「あまぬま」(岡崎乾二郎展から)